

項目	主な意見	備考
【各県共通】 取水施設の緊急点検	①取水施設の緊急点検について、その結果や対応策について、積極的に広報して頂きたい。	
【各県共通】 代替水源としての地下水の利用	②危機時における代替水源としての地下水の利用について、既存のルールがあるか伺いたい。	
【福岡県】 海水淡水化施設	③海水淡水化施設の耐用年数について伺いたい。また、福岡地域の水供給量に対しどの程度の割合を占めるのか。	本資料P2
【各県共通】 事業継続計画	④水の確保に関する事業継続計画の策定状況と内容について伺いたい。	資料2-1 P6
【熊本県】 竜門ダム	⑤下釜ダムから竜門ダムへの導水量は、どの程度か。また、竜門ダムへ導水することとなった経緯について伺いたい。	本資料P3
【大分県】 フルプランエリアにおける水源	⑥大分県のフルプランエリアにおける水道用水以外の水源はどのようになっているか伺いたい。	本資料P4
【熊本県】 施設の老朽化に対する取組	⑦施設の老朽化対策は、流域水循環計画の一環として取り組んでいるのか。	

※注 第10回筑後川部会の意見を事務局で要約、分類

第10回 筑後川部会における主な意見(県報告)

○海水淡水化施設

- ③ 海水淡水化施設の耐用年数について伺いたい。また、福岡地域の水供給量に対しどの程度の割合を占めるのか。

耐用年数について

- 福岡地区広域圏に水道用水を供給している海水淡水化施設については、平成29年度に現状調査を行っており、現時点では、主要ポンプ設備等を20年程度、電気設備等を25年程度、特別高圧受電設備等を30年程度としているが、施設の稼働状況により更新時期は変わる可能性がある。
- 今後、施設の稼働状況を踏まえ、順次更新していく予定。

水供給量の割合について

- 福岡地区広域圏の計画給水量（R2年度時点）に対して、海水淡水化施設の占める割合は、約6.1%である。供給エリアは、福岡市東部、新宮町、古賀市、福津市、宗像市となっている。
- 平成22年の年末頃から平成23年にかけての渇水時には、通常、4万m³/日の生産※としていたところ5万m³/日（125%）まで増量し対応を行った。

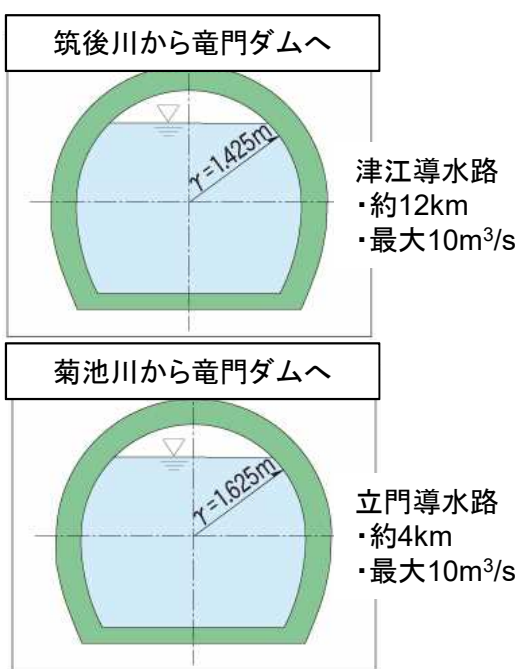
※通常は、夏期（7～9月）5万m³/日、それ以外の月4万m³/日で運用

海水淡水化の活用について（厚生労働省へヒアリング）

- 海水淡水化施設は、ダム、堰、水路と同様、水道の水源の開発に供する施設として位置づけており、水道水源の選択肢の1つ。
- 海水淡水化施設の建設に係る補助制度を整備。

第10回 筑後川部会における主な意見(県報告)

- 竜門ダム
 - ⑤ 下笠ダムから竜門ダムへの導水量は、どの程度か。また、竜門ダムへ導水することとなった経緯について伺いたい。
- 竜門ダムは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水及び工業用水の供給を目的として平成14年に完成している。
- 竜門ダムは利水容量33,500千m³に対して流域面積が26.5km²と小さいことから、同水系内である菊池川から導水するとともに、さらに不足する場合は、筑後川の流量が豊富な時に筑後川から、それぞれ最大10m³/sを導水する計画となっている。
- なお、菊池川水系では、竜門ダムの管理開始以降にダムから補給ができないなどの渇水が生じていないため、筑後川から竜門ダムへ導水した実績はない。



各ダムの流域面積と利水容量

ダム名	流域面積 (km ²)	利水容量 (千m ³)
江川ダム	30	24,000
寺内ダム	51	9,000
松原ダム	491	47,100
下笠ダム	185	52,300
大山ダム	34	11,000
小石原川ダム	21	16,300
竜門ダム	27	33,500

第10回 筑後川部会における主な意見(県報告)

○フルプランエリアにおける水源
⑥ 大分県のフルプランエリアにおける水道用水以外の水源はどのようなになっているか伺いたい。

大分県のフルプランエリア(日田市、玖珠郡九重町、同郡玖珠町)における用途別の水源構成については、以下のとおり。

なお、水道用水では年間約658万m³の取水のうち、約27.9%がダムを水源としている。

大分県フルプランエリアの用途別の水源構成

用途	水源
水道用水	ダム、河川の表流水、深井戸による地下水
工業用水	工業用水の取水は行われていない
農業用水	ダム、河川の表流水(許可水利権、慣行水利権)

大分県フルプランエリアの水道水源

